

三菱ガス化学株式会社「2022年度第3四半期決算説明会」質疑応答要旨

日時：2023年2月9日(木) 18:00～19:00 (WEB説明会)

説明者：取締役 常務執行役員 経営企画部管掌 兼 CSR・IR担当／北川 元康

Q1: 光学樹脂や BT 材料等の情報家電製品では、対面業界がかなり厳しい状況になっており厳しいと思うが、3Q の状況及び 4Q の見込みと、回復時期について、現時点での見立てを教えてください。また、半導体向け薬液は堅調に推移しているか見ていいか。

A1: まず BT については、3Q も汎用向けが戻らず、加えてアプリケーションプロセッサ、AiP、RF 等、全て急ブレーキがかかったような状況だった。4Q はスマホ向けで一部ハイエンド機種向けが動き出し、少し回復すると想定。来期については、1Q はまだ弱く、おそらく下期にやや偏重したガイダンスになるのではないかと。5G の比率が向上してくるのは BT にとって追い風であり、従来採用実績のなかった分野でのシェアも奪取していく所存。

光学樹脂については、スマホの販売低迷に大きく影響を受けた。3Q は新機種の生産期だったことと旧正月前の在庫形成もあり、出荷が比較的好調だった。しかしその反動で1月があまり良くなく、4Q 予想は3Q 比でやや減少する想定とした。来期に向けては、スマホの生産台数はさすがに回復するだろうと見ている。加えて、高画素化トレンド自体は継続すると。ハイエンドのスマホだけではなく、ミドルレンジでもスマホカメラは高画素化が進展していると聞いている。レンズの総数に占める当社材の使用枚数も増えている。また、車載や VR 向けにも力を入れており新規採用も始まっていることに加えて、眼鏡用レンズの超高屈折領域にも力を入れていきたい。

半導体向け薬液は、需要地別にややまだら模様。少し落ちているのは米国。韓国では堅調に推移。価格改定の効果もあり、3Q から4Q にかけて増益で見ている。

Q2: エンジニアリングプラスチックスでポリカーボネート(PC)はやや弱いという話だが、ここは三菱エンジニアリングプラスチックス社の再編、シナジー効果がもうすぐ現れるのでは。来期以降の戦略について、コメント願いたい。

A2: PC については、中国の拠点が苦しんでおり、経営としても最重要課題の一つと認識。タイの拠点は需給の悪化で今期は苦戦したが、回復の兆候もある。三菱エンブラの再編効果は今後計画通り出していきたい。この再編で三菱エンブラを PC 専門の会社にするのと同時に、ポリアセタール(POM)を既に同じく専門で100%取り込み、自由度が効くようになったことで我々の技術を移植して、フルに実力を発揮して貰おうと思っている。タイ、韓国の拠点とも販売が好調。四日市を近々停めてその分の生産をタイに移すことで、タイはより収益基盤が強固になると期待している。

Q3: PC について、苦戦している中国拠点では、原料競争力を改善すべくサプライヤーと交渉予定と聞いていたが、進捗を教えてください。他に改善の方策があるのか、或いはしばらくは需要の回復待ちとならざるを得ないのか。

A3: 主要原料であるビスフェノール A (BPA)や塩素等の見直しは予定通り実施したが、見込んでいた効果が出ない。例えば BPA では川上の原料と BPA のスプレッドが小さくなってしまい、期待していた効果が出ず、塩素も見直しを行ったが、他の電気代等のユーティリティコストが上がってしまい効果が相殺されてしまっている。打つべき手は打っているが、まだ他律要因があって残念ながら損益改善に繋がっていないというのが実情。ただ、市況回復待ち、需要待ちという訳にもいかないため、他の改善策も検討。競争力的にタイや国内工場よりも劣後している。とはいえ中国の需要も必ず戻ってくると思っている。例えば高透明グレードは、中国の国策もあり EV 車の普及が急速に進んでおり、搭載される PC も増えてきている。傍らで需要をしっかり掴みつつ、課題にも取り組んでいきたい。

Q4: 光学樹脂の VR/AR 用途について、少し採用も増えてきたようだが、これらの用途向けの付加価値は、スマホレンズとほぼ同等と見てよいか、或いは少し下がってしまうのか。

A4: 売上規模で見ると、現時点ではスマホ向けよりも2桁小さいレベル。またスマホで需要されているものとは違うタイプの樹脂原料を使っているケースなどもあり、販売価格は若干異なる設定になってくる。

Q5: 光学樹脂について、スマホのペリスコープレンズが来期本格化してくると思うが、このあたりの手応えを知りたい。また眼鏡レンズモノマーに関して、MGC 製品は非常に屈折率が高いと思うが、他社トップメーカーの独壇場になっている部分とは少し性質が異なる気がする。このあたりは屈折率等で対応していくということか。

A5: ペリスコープ向けの採用は既に始まっている。採用実績を訴求していきたい。眼鏡レンズモノマーについて、当社材は超高屈折領域に特化しており、一部領域では当社が独壇場と認識している。

Q6: VR/AR について、23 年以降の売上の規模感と成長性に関して、光学樹脂と比較してどれくらい見込めそうか。光学樹脂全体の伸びとして来期スマホ市場以上の成長を金額ベースで見込めるという理解でよいか。来期スマホの台数が例えば 6%伸びたとすると、高画素化や用途の拡大等でそれを上回る、例えば 10%といった成長のイメージ感を持っているということか。

A6: 期待をしているところではあるが、来期の予算等でどれくらい織り込めるのかまでは現時点では確たることを申し上げられない。売上規模はスマホに比べると小さく、定量感は差し控えたい。用途・向け先を広げていかなければいけないと課題認識しており、それに向けて着実に手を打ってきたい。

Q7: POM について、市況感、タイ・韓国子会社の 2Q・3Q 実績、下期以降のイメージについて教えてほしい。

A7: 市況はピークアウトしたが、意外と持ちこたえているという印象。定性的には当社は用途が自動車、OA 機器、生活関連、メディカルなど比較的分散されていること、地域も分散されていて補い合えていることなどがポイントと認識。加えて原料メタノールも予想の前提より安く推移していることもあり、3Q は価格の下落圧力は大きかったがまずまずの成績が上げられた。韓国が少し苦戦し始めたが、自動車がメインであり、顧客をしっかりとつかんでいる。テクニカルサービスでも差別化できていると認識しており、一気に価格が下落することはないのではないかと思っている。供給側の新設が現時点であまり聞こえてこないのは PC との大きな違いかと思う。

Q8: 無機化学品について。4Q に原燃料や輸送費上昇分の価格転嫁の進展を見込むとのことだが、計画に織り込んでいたか。また、浸透度合いは地域によって差があるのか。

A8: 値上げの効果は保守的に織り込んでいたが、経過月分まで遡及して価格改定でき、その分今回増益となった。需要が弱い米国等でも値上げは受け入れられている。

Q9: BT 材料について。スマホ以外のパソコンや家電、メモリ向け等の用途はいつ頃がボトムで、いつ頃から回復すると見ているのか。来年度上期はやや低水準とのことだが、落ちるリスクがあるのか。

A9: まずパソコンや家電向けの需要の伸びは、コロナの巣ごもり需要によるものと捉えている。その後在庫調整が長引き、ようやくはけてきたものの、まだ在庫の積み増しまでは行かず、切れた分だけ発注するというレベル。このような状態が 23 年度 1Q まで続くとしており、上期のガイダンスは弱い。また、メモリ向けについても弱く、動きを慎重に見ている。5G 基地局も回復までもう少しかかる。23 年度 1Q の需要水準は現時点と大きくは変わらない見込み。

Q10: MXDA と芳香族アルデヒドについて。10 月には MXDA のトラブルが解消したものの、下期に影響が出るとのことだが、基本的に 4Q には悪材料はなく、3Q 比で営業利益が圧迫されるのは、水島工場における定修と旧正月の影響等を織り込んでいるためか。また来期に向けて変化はあるか。

A10: 上期から下期で大きく減益となるのは、まず下期に MXDA とアルデヒドで定修費が 10 数億円かかるため。また、3Q の水島工場のトラブルによる限界利益減や需要減等、悪い要素が重なっている。

4Q は 3Q 比で営業利益が約 10 億円減の見込み。アルデヒドの主な用途は香料用途とポリプロピレン透明化核剤用途で、香料用途は極めて堅調。一方のポリプロピレン透明化核剤用途は出荷の期ズレがあり 4Q は販売減となるが来期は回復する見込み。また、3Q に販売が偏ったため、3Q は 2Q 比で増益となったが、4Q は 3Q 比で減益を見込んでいる。

3Q 以降、MXDA の生産トラブルに加え欧米の景気悪化によりエポキシ硬化剤向け販売が減少したが、景気が戻れば需要も回復する見込み。MX ナイロンは欧米の PET ボトル向けで景気悪化の影響を若干受けたものの、フィルム向け需要は好調で期待している。

Q11: メタノールの市況感についてアップデートしてほしい。22 年末から 23 年 1 月頃にかけて、中国や東南アジアで市況が反転している。中国のリオープニングは、それらの市況に大きく影響を与えると思う。原油価格が少し下がったため、エネルギー関連の需要環境は弱いと思うがどうか。

A11: 市況は 12 月で底を打ち、特に中国で市況が反転してきている。2Q 決算発表時に下期の市況を 390 ドルで見っていたのに、今回 4Q を 355 ドルと見ているのは、冬場の原料天然ガス供給制限によるメタノールプラントの稼働減を需要の弱さが上回ったため。中国のオレフィン市況が弱く、MTO 稼働が極めて低かった。稼働が上がってくれば、1~3 月や来期にはある程度の市況感が得られるのではないかと考えている。

Q12: メタノールの各拠点の稼働状況は正常か。また、サウジアラビアは為替変動によって為替差損益が出ると思うが、3Q と 4Q への織り込みは。

A12: 稼働に大きな変化はなく、各拠点とも順調。イレギュラーなトラブル等も特にならない。サウジの借入金に対する為替影響はややかく乱要因になっている。当社の為替感応度は高いが、円高になると、ドル建ての借入れがプラスに振れてオフセットするため、良い面もある。織り込み額は基本的に従前から変えていない。

以上

(本資料に関する注意事項)

本資料については、上記説明会での質疑応答について、加筆・修正を加え、当社の判断で簡潔に纏めたものであることをご了承ください。また、説明会資料同様、記載されている計画、目標等の将来に関する記述は、説明会当日現在において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて判断したものであり、不確実性を内包するものです。実際の業績等は、様々な要因によりこうした将来に関する記述とは大きく異なる可能性があります。